

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

札幌市 地域ワークショップ 報告書

2019（平成 31）2 月 25 日（月）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」北海道札幌市報告会兼パラリンピック教育研修会が開催されました。当日は、札幌市のオリンピック・パラリンピック教育推進校の先生方 63 名にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2019（平成 31）年 2 月 25 日（月）15 時 00 分～16 時 40 分

会場：札幌市生涯学習センター ちえりあ

主催：札幌市教育委員会、札幌市スポーツ局

参加者：推進校教員 63 名

プログラム：

15:00～15:05 開会挨拶

札幌市教育委員会学校教育部 教育課程担当課 指導主事 末原 久史 氏

15:05～15:40 実践報告

○八軒西小学校：研究課題 1

「オリンピック・パラリンピアンや、その指導者等を学校に招いて講演会を行う学習に関する研究」

○藤野中学校：研究課題 2

「オリンピック・パラリンピアン等を講師に招いてスポーツ体験を行う学習に関する研究」

～「あすチャレ！スクール」の取組～

15:40～16:30 パラリンピック教育研修会

○I'mPOSSIBLE の活用についての研修

札幌市教育委員会学校教育部 教育課程担当課 企画担当係長 指導主事 鈴木 圭一 氏

○パラリンピック指導研修会（ボッチャ・車いすカーリング・障がい者用バイアスロン及びシットスキー）

北海道ボッチャ協会 樋口 幸治 氏、石川 英仁 氏

16:30～閉会行事

16:40～閉会

開会にあたり、札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課の末原氏が、「今年度、札幌市では、子どもたちがスポーツの価値を再認識し、より一層スポーツ文化に触れることを目指し、オリンピックミュージアムを活用した時実践など、札幌市ならではの取組みを行ってきた。本日の報告会を通して、今後、より充実したオリ・パラ教育を展開していきたい。」と、挨拶をされました。

次に、実践報告会では、推進校を代表して八軒西小学校と藤野中学校の 2 校から、今年度の実践報告がありました。八軒西小学校では、カルガリー・アルベールビル・リレハンメル冬季オリンピックに出場された、アルペンスキーの川端絵美氏を招いての実践を行いました。道徳の時間で講演をし、事前学習として川端氏やアルペンスキーについての情報を、児童に教えていました。また、より深い学びへ結びつけるため、道徳に関連する他の教材を、各学年において実施するといった取組みをしていました。さらに、事後学習では、講演でどのようなこ

とを学んだかという手紙を児童が書き、川端氏へ送りました。藤野中学校では、北京パラリンピックのゴールボール代表、高田朋枝氏を招いた実践を行いました。実践にあたり、総合的な学習の時間を使って、高田氏や、2020 東京オリンピックに出場が期待される他の選手について、調べ学習を行いました。実践当日は、道徳の時間に、高田氏の講演やパラスポーツ体験を行い、実践後は、児童の学びの記録を残すため、学んだことをワークシートに記入させました。どちらの学校からも、日本代表選手が話すことで、より説得力や重みのある言葉が児童に伝わったことや、実践を通して、目標を持って努力することの大切さを学んだり、共生社会について考えるきっかけとなった、などといった成果が報告されました。また、より効果的なオリ・パラ教育を展開するために、他教科や他領域との関連性を持った実践を実施していきたい等の課題も挙げられました。

続いてパラリンピック教育研修会では、「I'mPOSSIBLE」の活用の仕方について、札幌市教育委員会学校教育課教育部教育課程担当課の鈴木氏より説明がありました。その後、講師の北海道ボッチャ協会の樋口氏、石川氏を中心に、ボッチャ・車いすカーリング・障がい者用バイアスロン及びシットスキーの体験会を実施しました。参加した先生方にとって、初めて体験するスポーツが多く、始めは難しいと感じている様子でしたが、次第にコツをつかめるようになると、参加者同士の話し合いも活発になっていました。参加者からは、このような面白いパラスポーツがあるとは知らなかったの、ぜひ子どもたちにも体験させてみたいといった声も寄せられました。



末原 久史 氏



鈴木 圭一 氏



樋口 幸治 氏、石川 英仁 氏



ボッチャ体験の様子



障がい者用バイアスロン及びシットスキーと車いすカーリング体験の様子